主体的学習の推進

～～～～～本校教育目標を達成するために～～～～～～

山辺中学校主体的学習推進委員会

I はじめに

授業が終った。清掃のあとの学活時間ももどかしく，待ちわびていたかのように，クラブ（部）活動にとび出していく生徒たちをみて，まい日の授業時間そのものも，このように魅力あるものにできないものだろうかと思った。学校生活の８～９割をすごす授業を，改善できないものだろうかと反省させられてきた。始業合図のチャイムがなっても席に着いていないし，先生が入室してからはじめて，かばんから教科書をとりだしたり，ノートの記入も，教師の板書をただ写す作業に終り，前進的思考や創造などのあとは，みられない。自習時間のざわめき，どう学習したらよいのかわからない実態……こう考えてくると，われわれ教師が過去指導してきたことがらに，なにか大きな空どうが発見されたような気がして，そら恐ろしい感じさえした。

当時昭和４５年度末は，本校教育目標の改訂作業がすすめられていたおりでもあり，上記のことはやがて具体目標２として，「自ら意欲をもち，学習にとりくめる生徒」という表現になり，４６年度からは，この教育目標達成のため全校でまい進することとなった。

従ってこの研究は，過去の何々指定研究というものではなく，本校自身の教育目標達成のためにまい日の努力を全職員がなすべき方策を明らかにするものであって，特定の予算もなければ，完成の期限も，厳密には設けられてはいない。それだけに，研究そのものが遅々として牛歩の感があるが，反面少しずつ変ぼうしていく生徒の姿を見て，日々の実践に励んでいるのが現状である。

II 研究のめあて

それでは，どうすれば生徒が主体的に学習するようになるだろうか。ここで，学習の基本的原理をふりかえってみたい。

生徒は，だれも等しくその内部に，向上発展する可能性をもっている。従って，勉強しなければ……というふうに気持ちとしては，みな思っている。しかし，そう思いながらも，その気持ちをどう実際にあらわしていくのか，方法がわからないでいる。そして，いつの間にか周囲の安易な生活環境に合わせて，その気持ちすら失いかけてくる。つまり，内部にある可能性が，なんらかの原因によって，引き出されないでいると解釈してみた。

本校教育目標２「自ら意欲をもち，学習にとりくめる生徒」を，主体的学習の態度や能力を身につけた生徒とおきかえてみた。私たちは，この研究を推進することによって，つぎのような望ましい生徒像をえがいている。

- よく考えることのできる生徒
- 問題解決の能力を身につけた生徒
- たがいに支え合い学習のできる生徒

以上は，たまたま村上芳夫氏の「主体的学習」に似ているところから，具体的な進め方は，それ

を参考にし，しかも本校の実態に合致した研究を推進していくこととなった。

Ⅲ 研究推進計画

1. 学習指導改善の基本として，つぎの５つを柱とした。

(1) 「教える」学習指導だけでなく，「生徒自身が自分たちで学習するのを助ける」学習指導へ。

(2) 記憶学習（再生的思考）だけでなく，考える学習（生産・創造的思考）をすすめるように，

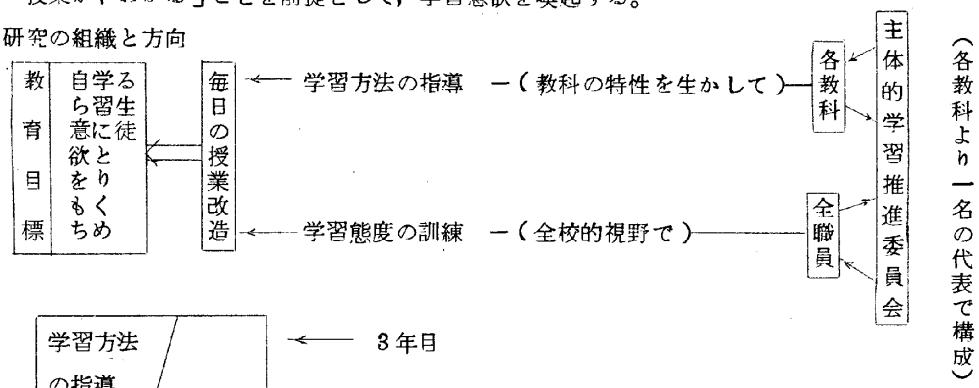
(3) それには，授業と個人（家庭）学習との結びつきを再検討し

(4) 生徒どうし協力・解決できるよう助長し，

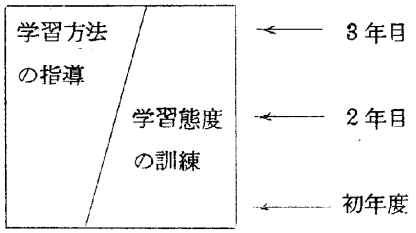
(5) 授業が「わかる」ことを前提として，学習意欲を喚起する。

2. 研究の組織と方向

(1)



(2)



Ⅳ 46年度の実践

1. 「学習のきまり」

毎日の授業に主体的学習をとり入れる際，私たちが大きな意識転換をしなければならないのは，「生徒自身が学習するのを，教師は援助してやる。」ということである。これは，言うはやすくして行なうは至難である。もちろん，生徒がいままでの学習態度を急に変えて，学習に意欲をもやすはずがない。そこには，教師側からの根気ある仕向け方が必要となってくる。学習方法の指導にしても，一教科で数十の学習訓練を経て，はじめて生徒自身の手で進められるようになるはずである。ここがたいせつだと思う。私たちも当初は，「生徒は，やる気がない。」として，片づけようとした。（だからこそ，この研究実践が必要なのだということも忘れて。）

さて，前記のように学習訓練は数限りなくあるが，教科独自の学習過程に応じた訓練は，各教科ごとに行なうこととし，どの科目にも共通な，しかも最低限，本校の実状からして必要と思われる学習態度訓練項目をとりあげ，「学習のきまり」９項目３重点として，全職員で徹底することにした。

(1) チャイムとともに……始業合図で席につき，机の上に必要なものが準備してある。すぐに学習係は，あらかじめ指示された活動を始める。また，チャイムとともに授業を終了すること

も含んでいる。5分間の延長は，次時にそれだけ迷惑がかかると銘記すべきである。

(2) 机の上の用具のおき方……教科ごとにくふうする。

(3) 机の中の清潔・整とん

(4) 正しい学習姿勢……いすに深く腰をかけ，上体をおこし，目の位置に注意する。

(5) 色えんぴつを有効に使う……ポイントを押えながらノートしたり，誤反応も消さないで，赤で訂正する。

(6) 積極的に学習に参加する……疑問はどしどし質問し，すすんで挙手をし，学習に参加する

(7) 作業のとりかかりを，すばやくする……教師の指示に対する反応を，きびきびとする。

(8) 室内の清潔・整とん……学習のたいせつな場として，全員で協力して行なう。

(9) 休み時間は，次時の準備をする……手洗い，水呑み程度にとどめ，庭へは出ない。

(1)(4)(8)は重点項目

2. 上記にあわせて，チャイムとともにどんな作業を始めるかが，各教科ごとに定められた。

例，理科　化学記号・分子式カードを，学習係が前へ出て，全員に読ませる。課題ボードは，係が理科室へはこぶ。

例，音楽，学習係が中心になって，笛・ハーモニカ・ノート・教科書・歌集・その他の忘れものがないか点検する。生徒代表の指揮・伴奏で合唱曲を練習する。

例，保体　学習係は中心になって，つぎのことをめいめいに行なわせる。

(1) ランニング（トラック3～4周，ダッシュ走3～5回）(2) ハードル走（5台を5回くりかえし，(3) 鉄棒（各学年規定のもの）(4) ジャンプ（サッカーゴールや砂場）(5) 集合・整列

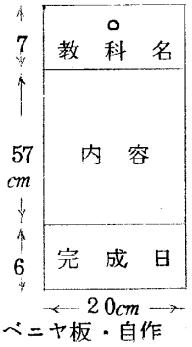
例　家庭　一般学習　課題を黒板を使って学習係が復習する。学習カード，ノートの点検を，学習係の号令ではじめる。

例　英語　学習係は，デイトが記入してあるか確認する。日直は，デイトについて質問を行なう。フラッシュカード読みをさせる。時間により，ガイドの答え合わせをする。

（技能教科においては，チャイム前より準備を始めるところが多くなってきている。）

3. 課題ボード

授業の終りにチャイムを聞いてから，あわてて次時への課題を（口頭で）出していたのを改め，授業の終り5分間程度をとって，次時の学習内容を導入しながら予習課題を提示する。この際に課題ボードを使う。教科別にボードが学級に備えられ，復習事項（黄チョーク），予習事項（白チョーク，テスト事項（赤チョーク）で要点が教師によって記入される。生徒は，必ずこれをノートに写しとり，また，その学習方法も既習の学習訓練をとおして指示される。教師の側からすると，2時間続きの指導案が当然頭にはいっていなければならないが，生徒の側からすると，次時のポイントが前時の終りに指示されるのであるから，この予習課題をやっておきさえすれば，次時での発表は自信をもってできるし，また，どこがわかって，どこが自分にはわからないのか，はっきりさせて授業にのぞむこと



ベニヤ板・自作

ができるので，おのずと学習に緊張と関心が生まれ，主体性をもつようになる。完成日は，生徒の過重負担をさけるために利用される。（予習課題の与え方，４７年度の実践の項参照）

4. グループの編成

４月当初，一せいに全学級４名を標準とする異質均等グループを編成したが，各教科の独自性や，生活班との関連などから，７月になって次第によりよい形に改善されてきた。これはまた，相互協力学習（調査，実験，練習，討議，チェックなど）においては，なくてはならないものであり，学習の能率化，練習量の増大などの面ばかりでなく，支え合いをとおして，学習意欲の喚起に効果をあげていると思う。

しかし，グループ内の人間関係を中心とした学級づくりと，教科担任と学級担任との密接な連けいがたいせつであり，グループリーダーの育成訓練は，特に重要である。

☆ グループリーダーのこころえ

(1) 発言がひとりにかたよらないようにする。リーダーは，教えるのではなく，まずどう思うのかを尋ねなさい。

(2) おくれている人や，間違った発表をした場合も，だいじにしよう。

(3) 横道にそれないように，話し合いのポイントをおさえておく。

(4) 発表者のいうことが，みなにわからないときは，リーダーが繰り返してやる。

(5) 話し合いには，資料を活用せよ。いままで習ったこと，ノート，ワーク，参考書，辞書，地図などを使って，「……には，こう書いてあった。」というようにする。

(6) 自分たちは，どこまでわかって，どこがわからないのかを，はっきりさせなさい。

(7) 必要に応じて，先生を呼びなさい。

(8) 時間をたいせつに，能率的に進行する。

5. 学習係の指導

主体的学習の推進にあたっては，生徒活動が自然に多くなるため，教科ごとに強力な生徒の推進役が必要となってくる。このため，各科別に１名の，その教科にふさわしい学習係が生徒間で互選され，半年交代制となった。（従来は，全教科を担当する学習係が，学級内に２名いた。）そして，この係が望ましい活動をするかどうかは，その教科指導に多大な影響があるので，毎月１回の定例学習係打合わせ会を全校一せいにとり，推進委員の教師がこれを教科別に担当し，係の指導訓練に当たってきた。（４７年度は，さらに学習係補助員を増員した。）

6. 教師自身の研究

第１学期は，上記１～５を中心としたテーマで，教科別校内研究授業を各科で行なった。第２学期からは，全職員をＡ，Ｂ２班にわけ，学期ごとに特定教科の研究授業を全員で参観し，理論と実際，１～５の徹底度等を研究した。また日常の研究としては，時間割内に位置づけられた教科研究日を活用して，学習過程の分析，学習方法の指導，予習課題等を討議してきた。

7. ４６年度の反省

(1) 学習のきまりは，どの程度徹底できたか。

(2) 教師自身の自己評価は，どうか。

生徒の反省票から			教師の自己評価から		
項　目	7月	2月	項　目	7月	12月
① チャイムとともに	45	51	1 チャイムとともに授業へ	80	80
2 休み時間に授業の用意	60	66	2 室内整とんの指導	71	75
3 机の中の整頓	55	65	3 学習係の活動	66	72
④ 正しい姿勢	35	38	4 正しい姿勢の指導	64	72
5 色えんぴつなどの活用	75	73	5 教科別研究日の研究状況	50	56
⑥ 教室内の整とん	55	42	6 グループ活動の採用	59	71
7 学習課題の完成	40	46	7 チャイムとともに終了	79	93

○印…重点項目　　達成度数字は%，全校対象，9項3重点から

(3) その他改善された点

ア 以前より始業時が，スムーズになってきた。特に学習係の訓練がいきとどいている場合は係を中心に有効な活動をはじめている。

イ 正しい姿勢の指導から関連して，机，腰掛けの適正化がすすめられた。木材のつぎたしや，他校からの融通などで，本年度362個（約40%）の調整が行なわれた。しかし，現状では，まだじゅうぶんとはいえない。

ウ 図書購入方法が研究され，主体的学習をすすめるうえで，教科ごとにグループ学習で必要なものを充実することになり，本年度6教科が配当された。また，学習のしかたを説明する生徒用図書が多数，図書室に配置された。

エ 補教の際の課題の与え方が研究され，課題指示票が作られ活用されてきた。

(4) 残された問題点

あまりにも表面的なことがら，一般的事項に一か年を費やしてしまった。（現在では，これも基本的事項の整備として必要だったと思っている。）反面，主体的学習そのものについての研究が，不足であったと思う。さきに述べたように，期限の明示のない研究で，特設予算もないので，参考文献，実践記録などを思うように検討できなかったし，先進校の視察，講師の招へいなど次年度の問題として残された。

また，全校ぐるみ体制の確立が，不じゅうぶんであった。特定教科の研究とちがい，教育目標推進のための実践研究であるから，容易に共通理解・協調体制ができると思うが，それだけに，研究の位置づけ，焦点化がむずかしかった。個人はもちろん，教科相互の話し合い不足による凹凸が生じてきた。

さらに，主体的学習の推進は，たんに教科指導の分野に終らず，学校教育全般にかかわりあってくることが，はっきりしてきた。環境づくり一つをとっても，校舎，採光，机，腰掛け等解決困難な壁は厚い。

しかし，職員室の共通話題に，主体的学習がとりあげられてきたことは，前途に明るい何かを期待してよいものだと思っている。

V 48年度の実践

1 現職教育の推進

前年度の反省にたって，教師用研究図書を一せい購入してもらった。主体的学習一般用¥6,000各科用¥24,000ほどを配分し，一学期中に個人学習とした。また，各科1名をえらび，1学期中に延9科目の研究授業をもち，主体的学習の授業構造を中心に話し合った。2，3学期は，前年度同様，予習的課題と計画学習（11月），発表・診断と協力解決学習（1月）をテーマに，AB2班校内研究会が実施された。

さらに，8月中には，国語，社会，数学，理科，英語の5教科の分野で，延7名が県外の先進諸校を視察したり，9月には要請訪問が実現するなど，研修の機会が一層充実されてきた。県内外の有名校の研究レポートをとりよせ，この面での教えられる面も実に多い。

2　環境整備等

継続事業として，机・腰掛けの調整が続けられるとともに，全教室へOHPスクリーンが常置され，OHPの保有台数も倍増された。また，グループ発表用小黒板が各教室に配置されたり（自作），雨天，曇天時に困っている照明設備の改善等も，進行中であるときいている。

3　予習的課題の出し方を検討

第2学期に，つぎのような手順で予習的課題の分析・検討を行なった。

(1)　現在，各教師の提示している予習的課題単位時間ぶんを，各科推進委員のところに集める。

(2)　教科研究日を利用して，上記課題をもとに，よりよいものを作りあげる。この際，教科の本質をじゅうぶん考慮して，従来の宿題的性格から脱却する。

(3)　各科で予習的課題をつくる際の柱をたて，望ましい課題例を作ってみる。

(4)　これを各教師が参考として，日常の課題作成に活用するとともに，よりよい課題を作れるよう努力する。

以下，いくつかの実例を示したい。

国語

(1)　作成上の留意点

ア　基本的には，予習課題が次の授業に生かされるものとする。

イ　能力差を考え，だれでも一つはできるものを与える。

ウ　国語科のねらいにあったものを，ドリルによって高められるように考える。

エ　他教科のことも考え，なるべく負担を軽くできる内容のものとする。

オ　意欲のないものにも，教科書をみて，下線（傍線）を引いてくるようなものなどを選んでやる。

(2)　学習課題

3年　　文学と人生　　故郷

わたしは，故郷で何を見たか。そして，その悲しむべき現実は，何に原因すると考えたか。

(3)　予習課題例

わたしの心に残っている故郷と，久しぶりに帰ってきた故郷のながめとは，どのように違っていたか。また，それは何に基づくか。

○わたしの覚えている故郷は，どこにどう書いてあるか。ノートに書いておく。

○２０年ぶりに帰ってきた故郷のようすは，どこにどう書いてあるか。ノートに書いておく。

○「わたし」は，その違いについて，どう感じ，どう考えたかをノートに書いておく。

社会

(1) 基本的な考え方

教師の指示する予習課題（復習課題・練習課題をふくめて）は，教師が意図的に次時の学習準備（基礎理解）をさせて，より学習を深め，発展させ，あるいは思考・創造の学習に役立つ事項と考えたい。

(2) 分量

８０％の生徒は，２０分以内で終る程度としたい。

(3) 作成上の留意点

ア 身近な資料を活用する習慣を身につけることをねらったものとする。

イ 全体の生徒ができるものをふくめて，能力差を配慮する。

ウ 次時の発問（学習活動の流れの中での）の中心事項を課題にして，学習してきた生徒には答えられる喜びをもたせ，課題にとり組む心構えを育成するようにする。

エ 以上のようなステップが訓練されたならば，つぎの発達段階の予習課題を考慮する。

(4) 学習課題

１年　　地理　　紀伊半島

「開発のおくれている北と南の山地」の人々は，どんな仕事で生活をしているのだろう。

(5) 予習課題例

ア 紀伊半島の南部の地形図をかいて，その特徴を知る。

＊ 方法　地図帳をしらべて，山地（茶色），平野（緑色），川（青色），半島，湾を記入する。（ＯＨＰで提示）

イ この地方の気候をなんというか。

＊ 方法　南九州，南四国の学習内容を復習する。（復習課題）

ウ この気候に関係する，どんな産業が山地に発達しているか。

＊ 方法　教科書，地図帳でしらべて，発達している都市と産業名を，地形図に記入しなさい。

エ 海岸には，どんな産業が発達しているか。

＊ 方法　教科書，地図帳でしらべて，どの地方でどんなものを栽培する農業が行なわれているか，地図に記入する。

オ 暖流の海水に関係する産業に，どんなものがあるだろうか。

＊ 方法　教科書，地図帳でしらべて，どこで何が行なわれているか，四国，九州の学習内容を復習して，地図に記入する。（復習課題）

(6) 予習課題と学習内容の相関（省略）

(7) 指導の方法とねらい

ア 予習課題ア～オのそれぞれの基本的事項については，８０％以上の生徒にできること。

イ　アの地形図は，全生徒にできること。

ウ　イ～オの発展的内容は，$\frac{2}{3}$以上の生徒対象

エ　他地域との結びつきや，地域分業の理解は，$\frac{1}{3}$以上の生徒

オ　能力の低い生徒は，活動生徒の発表により理解させる。$\frac{3}{4}$以上

カ　予習課題の内容は，中以下の生徒に発表させる。（$\frac{1}{2}$以下対象）

キ　予習課題より発展する思考内容は，中以上の生徒に発表させる。（$\frac{1}{2}$以上対象）

理科

(1)　作成上の留意点

ア　理科学習における探求の過程は，つぎのように考えられる。

a　疑問点をもつ（どう解決するか考える）

b　解決のための計画をたてる。

c　情報収集（実験，観察等）

d　情報の解釈

e　仮説をたてる。

f　検証

イ　予習的課題としては，各段階から次のそれに移行する過程において，それぞれ考えられる。

ウ　当面の目標として，c～dにおける課題が最もやりやすいであろう。

エ　意欲をもたせるという点で，～aの課題を研究していく。

(2)　学習課題

物質によるとけかたのちがいと，温度との関係をしらべ，溶解度および溶解度曲線の意味の理解と，その応用を身につける。

(3)　予習課題例

ア　きょうの実験結果を，グラフにまとめなさい。

イ　そのグラフから，つぎのことを考えよう。

a　水の温度と物質のとけかたについて，いえることはなにか。

b　種類のちがう物質のとけかたについて，いえることはなにか。

ウ　別の条件を個別的にあたえて，ねらいを達成するために，「実験上統一しなければならない条件」をしらべる。

美術

(1)　作成上の留意点

ア　課題がやってないと，その授業に困るというもので，必ずやれるもの。

イ　週一回の教科では，課題に対しての督促を，土曜日と前日と少なくとも2回しなければならない。

ウ　課題を2～3段にわけ，最も望ましいものはここまでという等級をつけ，能力差を考える。

エ　だいたい製作活動が多いので，何よりも物の準備を万全にしておく，そこから意欲がわき，心の準備ができる。

オ　日曜日など，楽しく喜んで美術の予習課題ができ，それが日常生活のあらゆる場面に実際に生かされることが望ましい。美術学習以外のところに，美術の学習が生かされることが望ましい。

(2)　学習課題

「人が働いている姿をかこう。」

家の人・近所の人・まちの中や田んぼで見かけた働いている人をかく。汗とか動きを感ずる生々しいものであるようにする。

(3)　予習課題例

教科書をはじめ，版画の作品をよく鑑賞しておこう。

ア　感動をうけたのは，どんなところか。〜〜〜 よい作品は，人を感動させずには，おかない〜〜

a　構図は。

b　明暗，白黒は。

c　動きを感ずるか。感動の焦点はどこか。

イ　自分は，どんな版画をつくりたいと思うか。

ウ　下絵を思わずかいてしまうというような，鑑賞の力や態度を，もたなければならない。

英語

(1)　予習的課題の分析

つぎのような内容が考えられる。

ア　復習に関するもの

a　前時の復習

b　新文型にはいるための基礎となる既習文の復習

c　言語活動的な復習

イ　学習事項の定着を目的とした練習的なもの

ウ　予習に関するもの

a　言語材料的見方（単語，連語，文法事項，etc）

b　言語活動的見方

c　題材中心的見方

(2)　作成上の留意点

ア　単なる次時の予習（上記ウ）のみでなく，分析のアをふくめた予習的課題とする。これは教科の本質から必要と考える。

イ　予習課題の学習方法も提示する。（例，単語の適訳，適語の見つけ方）

ウ　応能的課題をだす。

エ　重点を明確にするため，アンダーラインをひん繁に活用する。

(3)　学習課題

grade 2　　step 10　5　受身の疑問文，否定文

(4)　予習的課題例

ア　this music is very beautiful.

上の文を　a　疑問文にする。

b　その質問にYes, で答える。

c　否定にする。

わからない場合は，手びきP60のI参照（分析アのb）

イ　new words　その他，わからない語の意味しらべ（辞書を使って，前後関係から適訳を見つける学習訓練をしておく。）（分析ウのa）

以上は，全員。以下は，できるものが行なう。

ウ　P60 ℓ, 8　thisの指す内容は？

ℓℓ12～13 hope to ……daysの意味（アンダーラインで示す）（分析ウのc）

エ　英語で埋める。[　　]が[　　]の[　　]を祝っている。（分析ウのc）

4　予習課題をうけとめる授業構造の研究

(1)　個人学習の指導

前記のように，予習課題が提示されると，つぎは個人学習の段階にはいる。いままでは，勉強しなければと知りつつも，一部の優秀児を除いては，何をどうやってよいのかわからず，能率のわるい学習をしていたわけであるが，ここに学習の内容と方法が示されたので，あとは，やりさえすればよいということになる。この課題は，家庭はもちろん，校内で休憩時間，昼休み，放課後等にすませてもよいものであるから，私たちは，しいて家庭学習と呼ばずに，個人学習と呼んでいる。

もちろん，教師が手をこまねいたままで，生徒が完全にやってくるかとなると，そうはいかない。教科によっては，特定のノートを設定したり，グループ別予習課題完成カードを作ったりして，完成率を高めるために努力しているが，まだ定着したものはない。当初に挙げたように，授業そのものの改善がたいせつなのだが，ほかにも，教育相談，個別指導などの余地がありそうである。

また，課題が生徒に過重負担にならないという問題もある。そこで，時折，抽出による実態調査を行なっているが，全般的には，まだそれほど心配はないようである。

とにかく，この個人学習は，従来の宿題と異なり，「次時の授業をうけるには，必ず何か自分にできる準備をしてのぞむ。」ということから出発している。それには，自己のベストを尽くし，なんらかの問題点をもって授業にのぞませることである。一方教師としては，授業中に学習訓練の済んだものから，予習課題として提示することを怠ってはならず，さもないと，強制しても生徒はほとんどやってこない結果になってしまう。

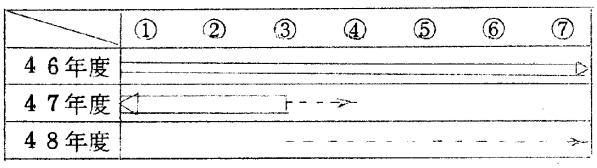
(2)　発表・診断・計画学習以下

このようにして，個人学習がすんだ生徒は，次時は発表からはいるのが通例である。つまり，従来の導入はない。（前時に予習課題提示の際，導入は原則的に済まされていると考える。）教科によっても違うが，本校で現在研究されている授業のプロセスは，おおむねつぎのようなものである。

（前時）　（家庭・学校）　（本時）→⑦を経て①まで

①予習課題 → ②個人学習 → ③発表させる → （正反応／不完全／誤反応）　④診断させる（原因をみつける）→

（正しいものへ到達する）⑤計画をたてる → ⑥相互学習 → ⑦教師指導 → ①予習課題



発表・診断・計画学習では，生徒訓練がまず必要である。発表者の選定は，教師のいちばん慎重を要するところであるが，生徒の発表・聞き方技能は，音量・発音・態度・内容・聞きとり方法などにおいて，もっともっと訓練しなければならない。現在，この問題を中心に，意図的・永続的に指導する研究がすすめられている。（付……基本的学習態度到達目標参照）

とにかく，生徒はここで発表を聞き，自分の学習と比較して，正誤や完・不完全などを診断する。そして，なぜそうなったかの原因を発見するとともに，正解へ到達するための学習計画が，たてられるわけである。以後は，生徒どうしの協力解決学習・教師指導へと進むのであるが，この辺は，第3学期に検討課題として残されており，まだ決まったものはできていない。

Ⅵ おわりに

前述したとおり，46年度は一般的な研究と基本的なことがらの整備でおわってしまい，47年度になって，ようやく本質的なものへ突入した感じがする。もちろん，それさえも，上記の学習指導プロセス図にあるとおり，まだまだ緒についたばかりで，不完全だらけといってよいと思う。

しかし，この2年近くで，生徒たちの学習ぶりは，少しずつではあるが，確かに変わりつつある。一例は，年2回ずつ行なっている個人学習時間の調査でも，この指導に接した期間の長い高学年ほど，向上したデーターを示してくれている。

48年度は，発表・診断・計画学習の段階から，相互解決学習・教師指導のあたりを中心に研究されるものと思う。そして，何は，じっくり考えさせ，何は教えるべきなのか，また，問題解決の能力は，どのようにしたら身につくのか，この辺が開拓されなければならない。

おわりに，先進諸校の御指導を期待する次第である。

付

基本的学習態度到達目標　（各科共通）　　48・2　作成

記号の解釈	○印	：身についてきた	（85％以上）
	C	：半数以上ができる	（50％以上）
	B	：だいたいできる	（65％以上）
	A	：よくできる	（80％以上）

	到達目標		
	1年生	2年生	3年生
Ⅰ 学習環境			
1. 教室内の清潔・整とんができる。（机の列・ごみ拾い・かばんのおき方など	○	○	○
2. 机の上の用具のおき方を，効果的にくふうできる。	B	A	A
3. 机の中を，使いやすいように整とんできる。	B	A	A
4. 温度・通風・照明などを考えて，窓の開閉ができる。	○	○	○
5. 黒板をふいたり，必要な教具の準備ができる。	○	○	○
6. 授業後のあとかたづけが，きちんとできる。	○	○	○
Ⅱ 学習準備			
1. きょう学習することは何か，事前にいえる。	C	B	A
2. チャイムとともに，学習係のリードで，教科の活動が開始できる。	C	B	A
3. 休み時間のうちに，次時の準備ができる。	○	○	○
4. 授業に必要な諸用具を，忘れずに持参できる。	○	○	○
5. 帰りの学級会で，きょうの学習事項（学習課題・予習課題・学習方法・準備物の確認など）を明らかにし，これをメモできる。	○	○	○
Ⅲ 個人学習			
1. 家庭学習が習慣化できる。	C	B	A
2. 能率的な個人学習ができる。			
(1) 学習計画がたてられる。	C	B	A
(2) 予習課題のしかたがわかる。	○	○	○
(3) 学習して，わかったこと，わからないことが区別できる。	○	○	○
(4) 校内において，時間をみつけて，有効な個人学習ができる。		C	B
3. 生活環境に合わせて，学習の計画がたてられる。		C	B
4. 学習した結果を，ノートにまとめることができる。	C	B	A
Ⅳ 発表・診断・計画学習			
1. 指名されたら，「はい。」と返事をして，立って発表できる。（教科によっては，立つ必要はない。）	○	○	○
2. 自分の学習したこと，考えたことなどについて，みんなにわかるように発表できる。			
(1) 全体にわかるような声で発表できる。	○	○	○
(2) 気おくれしないで，はっきり発表できる。	○	○	○
(3) 相手の方を見て，発表できる。	○	○	○
(4) 適当な速さで，語尾もはっきりと発表できる。	○	○	○
(5) 内容を順序だてて，要領よく発表できる。	C	B	A
(6) 周囲の人に尋ねたりしないで，自分のこととして発表できる。	○	○	○

3. 教師，友だちの説明・発表や放送などを，効果的に聞きとれる。

(1) まんぜんと聞くのではなく，聞きもらしのないよう真剣に聞きとれる。	○	○	○
(2) 重要なことがらを，メモして聞きとれる。	○	○	○
(3) 自分なりの結論を考えながら，聞きとれる。	C	B	A
4. 発表を聞いて，評価や診断ができる。（完全か不完全か。正か誤か。）	○	○	○
5. 不完全や誤反応の箇所を判定できる。	○	○	○
6. 不完全や誤りの原因・問題点などを明らかにできる。	C	B	A
7. 解決のための，手順や方法がわかる。	C	B	A
8. よりよいものへと修正・整理・補充などができる。	C	B	A
9. 自分の実力に応じて，取捨選択しながらノートできる。	C	B	A
10. 色えんぴつが，要領よく使用できる。（訂正や補充などは，消さずに朱書する。	○	○	○

V 協 力 学 習

1. グループ学習が，効果的にできる。			
(1) グループ内の，だれとでも必要な話し合いができる。	○	○	○
(2) たがいに支えあって，学習ができる。	○	○	○
(3) 協力して，解決に向かって，努力が集中できる。	C	B	A
(4) 与えられた時間内で，能率的に話し合いができる。	C	B	A
(5) 話し合いが，まとめて発表できる。	C	B	A

VI そ の 他

1. 正しい姿勢で学習できる。	○	○	○
2. 自分たちで，次時の予習課題を発見できる。			C
3. 指示された学習作業に，すばやくとりかかることができる。	○	○	○
4. 不明な点を，はっきり質問できる。	C	B	A
5. 実習に必要な正しい服装ができる。	○	○	○

（注 以上は，48年度の各学年指導目標と関連づけてある。）

評

急激に変ぼうする社会では無限の人間の可能性が要請される。その意味では生涯教育の必要性が叫ばれ主体的人間の育成が急務であるといわれている。中教審でも自主的・創造的人間の教育を理想像として教育改革が答申された。この社会の要請をいちはやく察知し，山辺中学校が主体的学習に学校ぐるみで研究実践をはじめたけい眼に賞賛を送りたい。今まで「やる気がない」と生徒側の問題として片づけていたことを教師側の問題としてきびしく受けとめ，46・47年度は「学習のきまり」9項目で則面的に主体的学習へアプローチをしている。48年度は各教科で授業を通して主体的学習のための授業構造の研究に着手，予習課題を単なる宿題という形から次時の学習過程と直結させて，主体的学習へ本質的なせまり方をしている。このような授業過程を通しての研究が主体的学習，しいては主体的人間の育成に肉迫する方途であると思う。